

# OB会報

湘南サッカー一部OB会報 第30号



## プレーだけでなく 地域でのサッカーへの関わりも

OB会副会長 39回生 小泉 親昂

十一月一日に湘南高校創立九十年記念式典が鎌倉芸術館で行われた。ノベル賞を受賞した二八回の根岸英一さんの講演があり最後は校歌で締めくくったが、会場で現役の生徒が様々活躍しているのを見てやはり湘南だという感を覚えた。その後会場を移して祝賀会があったが、サッカー部OBも多数参加しており、当日の神奈川新聞の企画は相羽君が担当、また関君がテレビ神奈川で取材放映に活躍していた。

湘南開校と同時に発足したサッカー部は高校選手権で、ベスト一六で敗退したが期待を持たせる活躍をしたことも、九十年の歴史の記念すべき年の出来事として記憶されるだろう。

さて私は現在神奈川県サッカー協会の地域委員会担当の理事として、各市町村サッカー協会と県協会の橋渡し役を務めている。各市町村の代表による地域交流大会や地域対抗大会を主管することも大きな任務だが、力をいれているのは、サッカーが各地域で発展す

るために各市町村協会間の交流連携や、審判や技術指導など県協会との連携強化をさらに図ることが大きな仕事である。

最近見ていると各市町村の社会人チームは企業チームからクラブチームへと移行しているように思えるが、クラブチームを育てるのは、中心になるメンバーの献身的な活動のように思われる。サッカーが好きで試合をしたいという人は増えているが、チームの運営は人任せというのではなかなか発展はない。そこで各市町村の担当者と懇談したり県協会と話し合ったりしている。

その中で湘南のOBの力が必要ではないかと思っている。少年サッカーなどの指導をしているOBは多数いるようだが、仕事の関係などあり社会人チームまで手が回らないというのが現状ではないだろうか。

これからのサッカー発展を考えると、プレーだけでなく地域での活動に多くのOBが活躍することが期待され

ると同時に、そのことが現役強化にもつながると思うのだがどうだろうか。

さて先日厚木市の荻野運動公園へ出かける機会があった。この公園のサッカーのピッチの芝生は素晴らしいものであり、これを管理しているのが湘南のOBで四一回生の望月君である。彼は湘南ではサッカー部ではなかったが今改めて良いグラウンドの管理を熱心に進めている姿を見て、湘南の校技であるサッカーはこのような場所でも発揮されているのだという感を深くした。

最後に今年は鈴木中先生が湘南に赴任して五十年という節目の年であった。その当時の一年生から三年生が五月に五十年ぶりに先生を囲んで懇親の機会を持つことができた。暮れの選手権、国体に県代表として出場したことなどを肴に素晴らしい会ができたこと。これも湘南でサッカーをやったことのおかげだと思っている。





## サッカープレイ再び

湘南ペガサス四十雀

64回 田村 直也

40歳を迎え、挑んだ初の四十雀リーグ戦。最終戦を戦い終えた数時間後、水上さんから「ペガサスの優勝が決まりました」とだけ綴られたメールが届く。

思い返せば、ちょうど1年ほど前に先輩方からペガサスJr参加の誘いももらいながら、迷いのあった私。10年近くサッカーから離れていたため、期待に応えられるか自信がなかった私。このカラダでは満足できるプレーができないと決めつけていた私。それでもまたサッカーに挑戦すると決心し、妻を驚かせた私。それ以来、忙しい日も帰宅後、簡単な筋トレから始めることにした私。チームの練習に初参加した翌日、歩くことさえ大変だった私。その私が、チームとして掲げた目標を達成したことを知った瞬間でした。

帰路の運転中に届いた水上さんからメールは、題目のみだった一言でしたが、嬉しさとチームメンバーに一刻も早く伝えたい気持ちが進められてい

るようで、最近感じるこのない「特別な気持ち」になったことを今でも鮮明に憶えている。

サッカーってやっぱり楽しい。でもなぜそう思うのだろうか？改めて考えさせられる。優勝したからであるのか？：確かに優勝しなければ感じることもないものだったようにも思える。戦績は12戦7勝2敗3分。2位とは同勝点で得失点2差の僅差。この数字をみてもわかるように優勝への道りは険しいものでした。

戦績とは別にこの1年、チームの一人になってからずっと感じていたことがあります。メンバー全員が湘南OBということではないのですが、湘南iSm（ショウナニズム？）と言うべきでしょうか、大げさにいえば、湘南でサッカーをしていた頃を思い出すような感じですよ（笑）。ほとんどの先輩方とは共にプレーした経験がないのですが、何か親近感・懐かしさを感じるのです。そしてサッカーに対する姿勢も真面目でかつ情熱的、日々とても刺激になります。

サッカーが楽しいと思える理由はひとつではない。スポーツである以上、勝負にこだわることから逃れられない。いいサッカーをすることも喜びにつながっている。でも今の私を支配し

ているのは、「誰と」サッカーを楽しむか。のような気がする。

サッカーに対する情熱的な先輩方とこれまでも共にサッカーを続けてきた同期の若木、小林、及川、剣持。そして1年下の代からも石井、井上が加入し、今後さらにも多くの同志と湘南サッカーができること、今しかできないチャレンジを共にできることを楽しみにしています。

今年の3部優勝はゴールではない。この先にも道は続いている。



## 「湘南ペガサス65」の立ち上げについて

37回生監督 牧村 英樹

関東Gリーグサッカー大会（関東各県が順番で主催している60歳以上の大会）に湘南ペガサス（ペガサス60と70のチームが参加）が初期の段階から今日まで常連として参加し続け、今日を迎えることができましたのは中原さんを始めとした「ペガサス70」の先輩の皆様が継続的な努力を積み重ねてこられた結果であります。他のチームは県代表を集めたメンバーで構成されてい

る中、神奈川はクラブチームである私ども湘南ペガサス単独チームであることを考えると、後に続く私達にとってこの体制が踏襲され、引き続き参加出来る現状は大変有難く先輩各位に深く感謝申し上げます。2年程前から埼玉県・千葉県を始めとして60歳代の選手層が増加したことに併せて、60歳代の前半と後半とは、体力差がかなりあることも加味されて、この大会の中に「O（オーバー）65」の試合が組まれるようになりました。2009年11月の埼玉県主催の「熊谷大会」に初めてペガサスとしてO65チームを編成し参加しました。2日間で3試合を戦い3勝と幸先の良いスタートを切る事が出来ました。震災により大会が一時中断されましたが、その後「栃木大会」、「東京大会」等に参加しました。千葉県代表チームとは勝ったり負けたりといった勝負をしますが、他県には力負けすることなく高い勝率を誇っております。今年は、以下の大会に参加し、老いて益々意気軒昂なサッカーを展開していこうと思っております。「清水大会」「埼玉大会」「千葉大会」「栃木大会」「茨城大会」「熊谷大会」「蕨大会」「東京大会」です。

一方、県内の60リーグに「ペガサス65」のチームとして参加すべく登録申

請をしましたが、残念!!兄弟チームは認めないとのことで、リーグ戦参加による「ペガサス60」との兄弟対決を実現できる楽しみが無くなってしまいました。「ペガサス55」発足時には上手くいったのですが・・・。

今後は「ペガサス70」への選手移行がスムーズに行くために、そして「ペガサス60」の高齢者の受け皿として、県内のリーグ戦には参加出来ずとも、県外の各種大会の試合に積極的に参加し大いに楽しもうと思っております。65歳〜69歳の方々と一緒に考えようと思われる方、WELLCOME!!です。写真は、11月5日〜6日に行われた「東京大会(於ける那須)時の新生「ペガサス65」のメンバーの雄姿?です。宜しくお願い致します!!



## ペガサス70活動報告

30回生 中原 弘巳

H22年度が終わろうとし、新年度の準備に入ったところで、東日本大震災に遭遇しました。翌日の三ツ沢での練習会、清水大会、馬入交流会と年度内の行事は全て中止となり、新年度に入っても、年度初めの埼玉の大会と全国シニア関東予選会が中止となり、全国大会へのエントリーも辞退しました。しかし、ほぼ一カ月の休止後、4月7日から活動を再開することが出来ました。

東北のチームとは、毎年交流会(東日本ロイヤルエイジサッカー)を行っており、今年も11月開催の大会に、東北地方から4チームが参加してくれました。お互いに、サッカーを再び楽しめることを喜び合いました。仙台、福島ของทีมは震災後、大変な苦勞をされたようですが、つらい生活のなかで、サッカーの練習会が息抜きになり救いとなっていたそうです。

県協会主催による平塚馬入人工芝サッカー場での神奈川O-70交流会

を、ほとんど毎週行っており、毎回約40名が集まって、年間を通して汗を流しています。ペガサスからも毎回1チーム以上の人数が参加しています。数年前にオーストラリアに遠征した時に、先方は毎週芝のグラウンドで定期的に練習をしているとのこと、羨ましく思いましたが、そんな環境が、神奈川でもO-70対象とはいえ、ようやく実現したことになります。最近では、東京や埼玉でも、古くからのSOIとともに、練習会が頻繁に行われています。これらにも忙しく参加して、連日サッカー暮らしの人もいます。

県内のO-70シニアリーグが今年から、ペガサス、イーストとウエストの3チームで正式に発足し、3回戦制で合計6試合を行いました。結果は3勝2敗1分けで、僅差ながら、昨年のプレ大会に続いての優勝でした。

JFA主催の全国シニア70大会は、来年度の本大会出場を決める関東予選が12月に行われます。

その他の県外の試合については、市原、埼玉、刈谷、福井、清水、熊谷、那須の多くの大会に参加しました。これらの大会では、埼玉スタジアムなど第一級の素晴らしい天然芝ピッチ上でサッカーを楽しむことが出来ます。

試合と練習会を含めての活動日を数えてみると、年間63日となり、ならして週1日以上となります。試合数は今後の予定を入れて39試合。戦績は今のところ、13勝13敗8分けの五分です。馬入の交流会で、練習試合中に仲間の一人が倒れ、意識が無くなる事故がありました。当人は、緊急の救命措置と病院での処置で、順調に回復し、再びピッチに立てるようになっていきます。日常の体調管理とともに、緊急時の対応の重要性を痛感しました。また、我々が楽しんでいる活動が救急体制や医療機関に支えられていることに感謝すべきです。

来年は、ペガサス70の会員29名の内、14名が75歳以上となります。そろそろ、O-75チームを考える時期になっていきます。ペガサス結成の33年前には、考えもしなかったことです。ペガサスの活動が生涯サッカーを目指す一助になればと思います。





## ペガサス60活動報告

42回生 田部井 徹

2011年度は役員全員が交代となり、新体制でチームの運営にあたることになりました。監督の坪井、総務兼会計の阿部、そして代表田部井の3人は、20歳の時から同じチームでサッカーを続けてきた仲間でもあり、お互いに全てにおいて気心の知れた間柄です。ペガサス60はここ数年優勝から遠ざかっており、「今年こそはリーグ優勝」を合言葉に、新年度のスタートを切りました。

昨年はリーグ戦3位という成績でしたが、試合内容を分析してみると引分けが7試合もあり、失点はそこそこ抑えることができたが、なんといても得点力が不足し、勝てない試合が続きました。点が取れない要因の一つに、フォワードとバックの間に大きなスペースができ、厚みのある攻撃ができないことが挙げられます。せっかくフォワードにボールが渡っても、押し上げが足りないためボールをうまく繋ぐことができなかつたり、相手チームに

中盤を支配されて自由にパスを回され、ハーフとバックが守備に追われ、全く自分たちのサッカーができなかったことが反省点でした。これらの分析結果から、今年度は意識的にバックラインを上げてフォワードとの距離を縮め、中盤にスペースを作らないことを心がけてプレーしています。監督からも試合のたびに、バックラインを上げるよう指示が出され、試合を重ねる毎に徐々に形ができてきました。

実際にバックラインを上げてみると、中盤でのボールの支配率も上がり、その分パスもよく繋がるようになり、攻撃に厚みが増えて得点力が増加しました。ただバックラインを意識的に上げただけで、このようにゲーム展開が変わるとは、何とも不思議なものです。バックラインが下がっていた時に比べると、相手のボールも奪いやすくなり、その分攻撃の時間が長くなったように感じています。しかしバックが高い位置でプレーするようになった分、バックラインの裏側のスペースが空き、今まで以上に逆襲への備えと、ゴールキーパーとの連携も重要になってきました。

60代のリーグ戦は前期、後期8チームの総当たりで行われ、各チームの試合数は年間で14試合となっています。

11月20日現在、12試合を消化して10勝1敗1分、得点25、失点7で、現時点で2位との勝ち点差は3点でトップを走っています。今年度のリーグ戦には毎試合20名近い参加者が集まり、大変な盛り上がりを見せていますが、その分、先発メンバーの編成や選手交代のタイミング等、監督の悩みは尽きません。あと残り2試合、何としても2勝して、今年こそ納会で美味しいお酒を飲みたいものです。

また全国シニア神奈川県予選にも参加していますが、こちらは参加5チームのリーグ戦で戦績は2勝2敗、今年もまた県代表の座を勝ち取ることができませんでした。宿敵「えぼし」と伏兵の「YK」に敗れました。5試合で得点5、失点4ですので、全く歯が立たない訳ではありません。しかし全国大会出場を本気で目指すのであれば、それなりの戦い方が必要になります。来年度はさらにメンバーが増えることから、チームの運営について見直す必要も出てきました。

その他にも県外試合として、関東シニア大会にも参加しています。今年は、千葉、茨城、埼玉の各大会に参加し、7戦して3勝3敗1分で、得点7、失点7という成績でした。こちらの試合はリーグ戦とは逆に、いつも参加人数が不足気味で苦勞しています。毎試合、最低でも15名くらいは確保したいところです。

年明けからは県議長杯のトーナメント大会が始まりますが、今はともかく目先のリーグ優勝に向け、残り2試合に全力を尽くします。



## ペガサスシニア55 2011年活動報告

代表 47回生監督 西田 修

今年からペガサスシニア55の代表となった47回(サッカー部OBではありません)の西田です。就任初年度としては甚だ残念な結果を報告しなければなりません。

今年のシニアサッカーリーグの全日程は終了しましたが、全国シニア予選、12月からの県議長杯トーナメント戦を残しており、未だ7合目といった感じです。

リーグ戦の成績は、2勝9敗3分けで15チーム中14位(得点7、失点20、最下位と勝ち点で並び、得失点差で1点上回る)という非常に厳しい結果となつてしまいました。昨シーズンから

戦力的にはほとんど変わりがなかったのですが、怪我人が続出したことなども大きな負け越しの要因の1つとなりました。

今年の50雀2部リーグは昨年より1チーム増えて、15チームの構成です。以下、各チームとの戦績です。

4月2日 対横浜 0-1

昨年3位の横浜が初戦の相手。立ち上がり、リズムよく試合に入るが、前半はカウンターぎみに速攻を受け失点。後半、相手を上回る動きを見せるも惜敗。

4月16日 対早園 0-4

立ち上がりこそペースをつかんだものの、その後終始相手に主導権を握られ、完敗。

4月30日 対綾瀬 0-0

互角の展開でしたが、後半半ば相手シュートがバックの足に当たり、キーパーのブラインドにもなっており、手痛い失点で惜敗。

5月7日 対中沢 4-1

攻撃で主導権を握り、GKを始めとして守備陣の堅守もあり、今期初勝利。

5月14日 対西湘 0-4

前半五分に近い展開だったものの、終了間際に痛い失点。後半は完全に主導権を握られ完敗。

6月4日 対ボロンズ 0-0

昨年1部の相手に対し、相手のミス、守備陣始め皆の奮闘もありドロ。

6月25日 対県庁 0-1

例年お得意にしていた県庁に、まさかの敗戦。1点が遠い。

7月2日 対浅・藤 1-0

約2ヶ月ぶりの勝利。前半の先制点を何とか守りきり、今期2勝目。

7月9日 対グランパ 0-0

梅雨明けの暑さの中、決め手を欠き、お得意先相手にまさかのドロ。

7月16日 対ウエスト 1-3

前半何とかしのいでいたものの、終了間際に失点。後半にも2失点。

7月23日 対多摩 0-1

前半終了間際の失点で惜敗。以上で前半戦終了(2勝7敗2分け)。

9月17日 対鎌倉 1-2

待望の先制点を奪うも、前半終了間際に連携ミスから失点。後半逆転を許してしまう。

10月29日 対赤羽根 0-0

久しぶりのリーグ戦。互いに決め手を欠き、ドロ。

11月12日 対足柄上 0-2

今季最終戦、チャンスはあったものの決め手に欠け、敗戦。

今年の2部リーグは早園、ボロンズ(以上1部から降格)、ウエスト、西湘あたりが実力的にはやや抜きん出て

おり、あとはさほどの実力差はなかったと感じました。そんな中で例年お得意にしていた県庁、グランパに勝てなかったこと、前半終了間際の失点のパターンが3、4試合あったことなども最終結果に大きく反映していると思います。

また、全国シニア予選は現状半分の4試合(横須賀、緑が丘、赤羽根、小田原)を消化しましたが、依然として片目が開かず、零敗が続いています。

今年はこの状況ですので、反省しありませんが、後半体力が落ちて中盤でボールを完全に支配された試合が相当ありました。FWとBKの間が相当空いてしまって、せっかくBKがうまくクリアしてもほとんど相手に拾われ、繰り返し攻撃を受け、失点してしまつたケースがということ。攻撃面でも、中盤が下がってしまつたため、たとえFWがボールを拾った

り、パスがながつても、攻撃の枚数が足りず単発的な攻撃となり、相手に読まれて止められてしまうパターンの繰り返しでした。

監督から常々指示されていることでもあり、基本の①パスを出した後の少しの動きによりパスコースを増やす。②攻撃時に縦を急ぎ過ぎず、後ろも使って攻撃の時間を作る。③BKラインの



## 湘南ペガサスシニア50 チーム報告

46回生 森 秀樹

46回生サッカー部OBの森秀樹です。湘南ペガサスシニア50の現状を報告します。

湘南ペガサスシニア50(50〜55歳中心のチーム)は、現在27チームが登録している神奈川県シニアサッカーリーグ(1部12チーム、2部15チーム)の1部リーグに所属しています。最近の戦績は、2009、2010年とも2位。今年は主力メンバーの何人かが転勤や怪我等の理由で参加出来ない試合が多く6位に終わりましたが、来年はまた上位を狙います。

湘南ペガサスは、神奈川県議議長杯トーナメント、全国シニア選手権にも参加しています。一昨年、全国シニア

神奈川県予選で2位となり、今年2月に開催された関東シニアサッカー選手権に神奈川県代表として出場しました。試合は2月11日、12日の2日間予定されていましたが、前日から大雪。会場の保土ヶ谷人工芝グラウンドはシャーベット状の雪がくるぶしあたりまで溜まっていて、グラウンドに足を踏み入れた途端にシューズの中まで冷たい水が入ってしまうような悪コンディションの為、1日目の試合のみが行われました。雪でペナルティーエリア・ラインが見えず、ゴールキーパーがハインドを取られてフリーキックから直接ゴールとなる不運などもあって結果は1分1敗と振るいませんでしたが、試合内容は互角。このレベルの試合でも十分戦える手ごたえを感じた試合でもありました。

YCAC 国際親善試合

11月12日、横浜山手にある Yokohama Country and Athletic Club の Over 35 (35歳以上) のサッカーチームと国際親善マッチを行いました。100年の歴史をもつ英国人中心のメンバークラブです。ペガサスは40代と50代のメンバーの混成チーム。天候に恵まれ、メンバーの家族も応援に駆けつけて賑やかな会になりました。サッカーのレベルもほぼ同じで楽しい

試合でしたが、英国サッカーの基本に忠実なプレーに学ぶことの多い試合でもありました。試合後、クラブ内のバーでビールパーティー。「みんなで歌おうコーナー」など楽しい時間をすごしました。相手チームにも好評で、これからは年2回春秋に開催しようという事になりました。まずは、来年3月にリベンジマッチを予定しています。(今回の国際親善マッチは20分x4セットでおこなわれました。第3セットまでは、2-1でしたが、第4セットにわがチームのゴールキーパーが、一時負傷退場したこともあって、6失点して完敗したのです。) 今後は、これを機会に60代、70代の国際親善マッチを企画して行きたいと思っています。

付記

(ペガサス50代表48回 関 佳史)

ペガサス50で、今年は46回森秀樹さんが、来年は52回八木啓太さんがマネージャーを引き受けていただきます。我々の前後では、40雀では元松さん、石郷岡さん、五代さんがチーム運営を支えてくれましたが、多くの皆さんが運営に参加するようになり、喜ばしいことと思います。また、41回の伊通さんはリーグの試合日程を管理する競技委員の大役をやっています。およそ12年に一度の競技委員を数回引き受



ペガサスジュニア報告

変革期

62回生 田中 敦

けていただいたおかげで、後輩の我々は順番が回ってこない状況です。可能な限り、リーグ運営、チーム運営に、湘南OBが手分けして関わるよう、ころがけていきたいと思っています。

ペガサスジュニアに加入して3シーズン目となった今季は本当にあつという間に過ぎた。一つにはチーム代表を拝命し、これまで受動的だったチームへの関わり方が能動的になったことで、チーム運営についてあれこれ考えたり、監督やコアメンバーと意見交換をしているとすぐ深夜になり、あつという間に一週間が経った。その繰り返しだった。

二つには、年初のリーグエントリー時から13名の新規加入があり、彼らとプレーをすることが楽しくわくわくし、次の試合が待ち遠しかった。特に田村や若木ら選手権組(70年生まれ)は私が3年の時の1年で、こうしてまた一緒にサッカーができることがな

よりもうれしかった。70年生まれが7人、69年生まれが3人加わり、リーグを戦いながらチームが目に見えて進化していった。代表を拝命したとき、チームを強くしたい、とう思いが強かった。

新規加入組がチームの進化の一番の原動力となったことは言うまでもないが、練習を行い、試合開始90分前に集合してチームコミュニケーションを図り、チーム力のポトムアップとベクトル合わせに注力したことも、プラスに働いたと考えている。そうして、チームは試合毎に強くなった。ここまで急激にチームが変わることはリーグ開幕時に想像できなかった。チームが強くなることで出場機会が減った選手も多くなる。それでも最終戦には23人が駆けつけてくれた。最終戦に勝利して2位以上が確定した瞬間、それぞれの選手がそれぞれの思いを持ったことと思う。

まだ、これからトーナメントがあるが、来季のリーグ開幕に向けてチーム体制を整えて、目標を共有するためにチーム内でしっかりと話し合うことが大切と考えている。今季のチームの勢いを来季は止めよう、と口に出して言う選手はいないと思うが、さらに上に行くためには試合の出場機会という点ではよりシビアにならざるを得な

い。全員が、というのは難しいと思うが、より多くの選手が納得できるチームづくりに来季も貢献したいと考えている。



## チーム変革の時を迎えて (トトカルチヨ湘南活動報告)

82回生 篠塚 貴志

OBの皆様、平素より大変お世話になっております。高校卒業後、現役のコーチを始めて5年目になりますが、今季よりトトカルチヨ湘南(以下トト)の運営係も務めております。トトの先輩方に御迷惑をおかけしてばかりですが、今後20数年サッカーを楽しむ場として、トトの土台安定と継続的強化を目指して動きだした今日この頃です。

一時は神奈川県1部リーグに所属したトトも平成19年度に3部リーグに降格し、その後2年連続で昇格戦に進出したものの昨年度には昇格戦への進出も逃しています。そのような状況を打破すべく動き出した今年度でしたが、悪い流れを止めることができず昨年度以上に低迷しております。7試合終

わって1勝4敗2分(1勝は不戦勝)と、目標の昇格からは程遠い結果となつてしまいました。

今季は11人揃わない試合が多く、メンバー集めに苦労しました。初戦、第2戦は9、10人しか揃わず1敗1分。11人揃った第3戦も練習不足から得点を奪えずスコアレスドロー。9月には人数不足で不戦敗。基本的にチームの体制が整っていない状態であり、中心的な選手が集まって会議を行うほど深刻なものとなりました。終盤となる6試合目には若干名の若手の追加に成功し、ようやくチームとしての活動が軌道に乗り始めましたが、若手の増員が遅れた結果、人数が揃った後も2敗。1試合を残して不戦勝以外は勝利がありません。

来季以降の昇格を目指すに当たり、喫緊の課題は若手の増員です。現在登録されている80回以降の選手は、80回が2名、81回が2名(1名は今夏加入)、82回が6名(3名は今秋加入)、83回が0名、84回が3名、85回が1名(今秋加入)、86回が2名(今秋加入)です。この中で毎週の練習・試合に積極的に参加できているメンバーは数名であり、若手のチームへの関わりが今後トトの継続的強化の鍵を握ります。

しかし近年は若手のOB会の活動へ

の関わりは希薄になっていきます。若手を主体とするトトは年始の総会にも参加せず、OB会の活動に関わっていない状態です。今後のトトの強化に向けて私は、若手も総会をはじめとするOB会行事に積極的に参加しつつ現役との交流を活発化するべきであると考えています。トト自身がOB会・現役に積極的に関わることで、現役の卒業後の積極的参加を促し、トトの継続的な強化につながるでしょう。チームの変革はチーム自身の在り方を変えるところから、です。

サッカーをする仲間には早急に必要なので、若手の参加を積極的に受け入れていますので、積極的にトトのメンバーに連絡を頂けると幸いです。「OB会を通して生涯のサッカーを湘南高校サッカー部と共に」と考える若手が増えると大変喜ばしいですが、まずは気軽にトトの活動に参加して頂ければと思います。来季は公式戦を年間7、9試合を予定し、毎週土日のいずれかの朝を基本として練習をします。加えて現役との交流を兼ねて度々湘南高校にお邪魔をし、練習に参加させて頂く予定です。今年度も度々お邪魔させて頂きましたが、現役生にとってはOBから学ぶところも多く、卒業した後に積極的に湘南高校に関わることを印象

付けられると思います。一方で、現役のサッカーはサッカーの発展と常に隣り合わせですので、多くのことを吸収できる若手OBにとっても現役との交流は大変貴重です。

OB会・現役とのつながりを強めつつ、土台安定と継続的強化を目指します。「来季こそ、昇格。」です。今後ともよろしくお願いいたします。



## 報告

監督 小林 周太郎

今年度も多大なる応援とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。1月の蹴球祭で神奈川県トップを狙いチーム力を高めること。そして代表をかけてのスタジアムでの試合を応援していただくことを今年度の目標とさせていただきましたが、後述の通りの結果となり、申し訳ありませんでした。もっと指導力を高めなければサッカーの進歩に置いていかれるという危機感を持って今後取り組んでいかなければと思われました。ただ、照準を合わせた大会で敗戦を喫したのはプリンス

リーグとKSリーグのチームばかりであつたことがこれからのチームとして目指す課題が明確となったと考えています。年間を通して安定した戦いができるチームを1チーム以上持つことができなければ、リーグとトーナメントの両立は難しいことも感じました。

今回の選手権の結果により、新人戦を戦わずに関東大会予選の第2シードを獲得したため、4月までの約5ヶ月半を公式戦がなく過ごすこととなりました。じっくりとチームを作ろうと考えています。また、今年度は3学年で合わせて85名の部員となり、常に3〜4チームで活動をしてきました。金曜日はコートが狭く、2時間ずつの2部練習としていました。3年生が選手権で抜けた後も65名の部員で活動をしています。おそらく4月には多くの新人部員が加入し、90名を超えるような状況になることがあるのかもしれない。湘南高校サッカー部に魅力があつてのことだと思えますので、そのようになつていくと良いなと思つています。そして、今日の強豪と呼ばれる学校と同等のチーム力を目指して、選手と共に切磋琢磨していきたいです。

また、来年の3月24日からはスペイン・イングラウンド遠征が予定されております。

大人数の移動のため、2便に飛行機が分かれる部分が行程に含まれるなど、前回までとは違った難しさが出てきています。ただ、毎回同じこととなり恐縮いたしますが、継続していくためにはOB会の全面的支援がなければ実施できない企画であります。お願いばかりとなりますが今回もご理解とご協力をよろしく願ひいたします。

最後に、部の指導方針として、勝利を目指すこと以外に、オフザピッチで当たり前のことがしっかりとできることを求めています。それは、遅刻をしない、服装を乱さない、あいさつをする、そうじをする、授業をしつかりと聞くなどです。選手権会場運営での選手たちはいかがだったでしょうか？ サッカーをプレーできることに感謝でき、プレーで人を魅了し、サッカー以外でも人を魅了できる人物が湘南高校サッカー部員であることが、多くの人から応援していただくためには大切であり、社会に出てからもサッカーの価値を高めていける本物のサッカー人だと考えています。2年連続で3年生部員全員が選手権予選までサッカーをやりました。来年度も3年生が中心になつて強いチームになつていくと信じています。今後ともご支援をよろしく願ひいたします。

今年度の結果

関東大会予選

2 回戦 瀬谷西 4対0

3 回戦 有馬 1対0

4 回戦 大和南 1対0

ブロック決勝 横浜東 1対3

ベスト16

インターハイ2次予選

1 回戦 日大藤沢 0対0

PK勝ち

2 回戦 桐蔭学園 0対1

ベスト16

選手権2次予選

1 回戦 秦野総合 3対0

2 回戦 横浜創英 1対0

3 回戦 向上 0対2

ベスト13

K2リーグ

3勝3敗 8チーム中3位



現役報告

主将 大村 恭平

この度、主将となりました大村恭平です。OBの皆様からの心強いご支援、ご協力により、日々充実した活動

ができることをとても幸せに感じています。そのご支援をチームの力に変え、OBの皆様の期待に応えられるように精進していきます。よろしく願ひ致します。

10月16日、3年生が引退し、新チームが始動しました。そこから話し合いを重ね、チーム全体として「感謝と革新」をテーマに活動することを決定いたしました。

OBの皆様方の努力によって築き上げられた伝統の中で活動できることに対する感謝とともに、顧問の先生方や家族など、周りの方々の支えによつてつられてはいる活動環境への感謝を常に忘れてはいけないと思ひます。そして、その感謝をプレーに表し、自分のためだけでなく、人のために努力すること、より一層気持ちの入つた良いプレーができるのではないかと考えています。また、前年よりも上にいくためには前年よりも質の高い練習が必要だという意見から、「過去からの伝統を大事にしつつも、おかしいと思う所は話し合つて改善していく」という革新を積極的に取り入れていこうと考えています。

以上のことをチーム全体に浸透させるため、ミーティングの時間を有意義にする等、仲間とのコミュニケーション



ンを大切にしていきます。

まだまだ課題が多く、なかなか全員が満足いくプレーをすることができないチームですが、まずは4月の関東予選までの間、小林先生のご指導のもと、基本的なことからはひとつひとつ克服していきけるようにチーム一丸となつて練習に励んでいきます。また、先輩方から学んだ社会性や人間性もしっかりと養い、多くの方から応援していただけるチームとなつてOBの皆様に全国でプレーする姿を必ずお見せします。今後とも温かい応援、よろしくお願い致します。



## 還暦を祝う会

45回生 浅倉 泰

11月19日土曜日に恒例となりました還暦を祝う会を藤沢グランドホテルにて開催しました。この会は3年前42回生が還暦を迎えるにあたり、鈴木先生をお呼びして宴会をやったのが始まりとのこと。その後、上下2代のOBを呼んでやったらどうかとの先生の発案で2回続きましたが、今回は参加

者が少なめとなる見通しで、どうせやるなら賑やかにやろうと言うことで上下3代、42回生から48回生の7代のOB、49名の参加を頂き、お陰様で盛会となりました。

我々の代は9名ですが、岡崎が出張で欠席でしたが、7年前に若くして亡くなった山口晴夫の奥様、君枝さんが参加して、紅一点場を盛り上げて頂きました。先生からは『おまえらは人数が少ないから、全員に絵を描いてやる』と大変有り難いお言葉を頂き、当日は抽選で1人1人思い出深い湘南高校の風景画と先生がお持ちになつていた昔の記念品を頂きました。

来年は先生が喜寿を迎えますので、46回生の還暦を祝う会と同時に先生の喜寿を祝う会を開催することになりました。と

いうことで来年は更に先生の薫陶を受けた代には全て連絡をしますので盛大な会となりそうです。46回生の皆様が幹事として引き取って頂きました。準備が大変でしょうがよろしくお願い致します。来年の会が多くのOBが参加し、楽しい会になることを願っております。



## 神奈川新聞の投稿

昭和20年、湘南サッカーメンバー



8月30日の神奈川新聞に、厚木中OBの桐ヶ谷博さんが、湘南中との試合の思い出を投稿されました。

これをご覧になった、原田徳夫さん(23回)から、編集部にお手紙をいただきました。そのポイントを紹介します。

記憶では昭和20年10月頃の試合のとき、原田さんは補欠で、4年生の1級上(22回生)がレギュラー。3年生は、小林忠生さんと佐々木道也さんの2人が出場。

佐々木道也さんは、佐々木信也さんの長兄で、11月に辞めて、野球部を創設。

佐々木道也さんが辞めたあとのポジションを原田さんが引き継ぎ、1年後の昭和21年11月に国体で全国優勝を遂

昭和21年11月3日 国体優勝メンバー



げた。

ユニホームは戦前からの申し送り、あっちこっち破れてミシンのあと、つぎはぎだらけであった。

靴もズックや地下足袋が多く、サッカーシューズは半数もいなかった。

昭和22年1月5日 蹴球祭



### 「日本一の強さ」思い出す

無職 桐ヶ谷 博81(藤沢市)

暗いニュースばかりの日本に、突然明るいニュースが飛び込みました。サッカー女子W杯で「なでしこジャパン」が頂点に。しばらくして思い出す前年、旧制厚木中学4年

しまったのです。当日現れた湘南中の選手たちを見て驚きました。全員そろいのサッカーウェアに短パン、サッカーシューズでした。わが厚木中は、復員してきた兵隊さんの靴。白い半袖シャツの左胸に校章が縫いつけてあっただけでした。試合開始。前半で5点

取られ、後半は10失点。監督はニコニコで、一日本一は強いなあ。お前たち、いい勉強させてもらったぞ。これは「私たちがほうぜん自失。右往左往している間に終わってしまったのです。今、何かが覚えているでしょうか。霧のかなたのような遠い思い出です。

### 編集後記

48回生 関 佳史

#### 大会の変更、海外遠征など

今年度から、新人戦の中央大会がなくなりまし。従来、11月頃に新人戦地区大会、1月に中央大会という日程でした。今年度は、新人戦の地区大会の上位部分(地区シード決め)を1月に行います。湘南は、選手権でベスト16でしたので、新人戦は出場しません。そのため、11月から3月まで、公式戦がありません。この期間は練習試合を組みます。

関東大会は4月7日(土)頃の開始、海外遠征から帰国するとすぐに開幕。この大会では、KS組(およそ7(8チーム)がベスト16からの出場となり、2011年の選手権でのシードの湘南、浅野、相洋が次の第2シードです。プリンスリーグの桐蔭、桐光が参加しない大会ですので、まず関東大会の代表権(2校出場)をとることが当面の目標となるでしょう。小林周太郎監督、曾根梓顧問、大東洋樹顧問の

#### 海外遠征

3名の先生と、OBの篠塚コーチ、中山コーチが指導に当たっています。

3月24日(土)〜4月3日(火)の日程。マドリーに入って、レアル・マドリーとレアル・ソシエダの試合を観戦。ビルバオに移動して、アスレチック・ビルバオのユースなどと試合、ビルバオでは学校間交流を行います。その後ロンドンに飛び、チェルシーのユースなどと試合を行います。週末にプレミアリーグの試合がありますが、入場券が約5万円と高く、これを観戦するかは未定だそうです。

小林先生、大東先生とOBの山田さん(40回)、相羽さん(41回)が同行する予定です。及びに、医師として、大木先生夫妻(OBではありません)が、帯同します。大木先生は、茅ヶ崎で開業、東海大医学部のサッカー部出身で、お父様が湘南高校をご卒業、鈴木中先生のご紹介です。

#### 湘南高校90周年記念事業

90周年事業では、清明会館の1階の自転車置き場を改装して、「湘南高校歴史館」という資料館をつくり、2月末

頃に開館予定です。この中の展示を行うため、各運動部、文化部から代表が参加して内容を作りました。サッカー部からは、相羽さんと関が参加し、サッカー関係だけでなく、様々な作業を行いました。相羽さんは主に歴史年表部分、関は根岸英一さんのコーナーと映像関係を担当。サッカー部、野球部の全国優勝は特別のコーナーができません。また、「湘南大樹」という各界で活躍された方、200名程度を取り上げる展示では、小林忠生さん(24回)が選ばれ、サッカー日本代表で活躍された功績を紹介します。

11月1日には、鎌倉芸術館で、根岸英一さんの講演を目玉とした記念式典と鎌倉プリンスホテルでパーティーを開催しました。この機会に、神奈川毎日広告社にお勤めの相羽さんが企画し、神奈川新聞で4頁の企画特集を製作し、当日の参加者1500名に配布しました。この記事では、文武両道を掲げる湘南の歴史といまの学校をわかりやすく紹介しています。また、産官学で活躍する4名のOBの対談を掲載、サッカー部OBで東工大副学長の鈴木啓介さん(48回)が参加。森稔・森ビル会長、近藤誠一・文化庁長官、片倉もとこ・国際日本文化研究センター教授といった錚々たる皆さんと対

談しました。

この神奈川新聞は、5千部を別刷りで印刷し、新入生や歴史館の来館者に配布します。また、サッカー部は、蹴球祭でも配布します。そのほか、各地の湘友会、クラス会などにも対応する予定です。

サッカー部OB会名簿の作成につきましては、難行しています。昨年実施した、住所の掲載についてのアンケートの戻りが、200通程度と非常に低い数字でありました。このことにより、次の作業に取り進む方向を打ち出すことができませんでした。また、2011年は、事務局の相羽さん、関とともに、湘南高校歴史館の作業が重たくのしかかり、余裕がありませんでした。湘南高校全体の名簿は、昨年6月に発行されたので、これをもとにサッカー部のOB名簿をより精度の高いものにするには、物理的には不可能だと思います。しかし、作業の手間、引き受け手という大きなハードルがあり、今後の課題したいと思います。

#### 筑波大付属定期戦

期日：2012年3月20日(祝)

場所：筑波大高校付属グラウンド

なお詳細はHPをご覧ください。  
※今回、春のハガキ連絡は休止します。

# グラウンドに来て、旧交をあたためましょう。

## [蹴球祭・総会のご案内]

期日：1月8日(日) 場所：湘南高校(グラウンド、清明会館)

普段サッカーをしていない方、運動不足の方も  
楽しめるマッチングをします。  
是非、お越し下さい。

09:30～10:50 現役 VS トトカルチヨ  
11:00～12:00 総会 幹事会はその前9:30～  
12:15～12:30 現役交歓式  
12:30～13:30 食事  
13:30～15:30 OB紅白戦 2面使用 着替えは清明会館和室使用

※本部に会長、事務局、鈴木先生がいるようにしますので、必ず立ち寄って下さい。

※受付は総会終了後12:00から開設し、会費納入と引き換えに弁当を配布します。

## 【平成23、24年 会計報告・予算案】

### 収入

	23年実績	24年予算
会費	1,262,000	1,210,000
前年度繰越	512,826	1,046,480
	1,774,826	2,256,480

※収入見込み 社会人130名、学生20名が納入  
10,000×100名+5,000×30名+3,000×20名

### 支出

	23年実績	24年予算
現役寄付 *	400,000	400,000
蹴球祭	80,000	80,000
印刷費など	136,290	150,000
通信事務	112,133	120,000
海外遠征補助	0	600,000
繰越	1,046,480	906,480
計	1,774,903	2,256,480

### 海外遠征の予算について説明

24年3月の海外遠征は、23年、24年の2年間で下記の計600,000を予算化したと思います。

1年では、300,000となります。23年分は繰越金1,046,480円に含め、24年に支出します。

コーチ1名分(旅費全額補助)	400,000
同行OB補助	100,000
同行医師への助成	100,000

・なお、今回の遠征には学生OBコーチが同行できないため、教員コーチ(大東先生)が、小林監督のほかに1名同行の予定。

### 実質単年度収支

	23年実績	24年予算
収入	1,262,000	1,210,000
支出	1,011,472	1,050,000
収支	250,528	160,000

※23年実績で遠征30万を計算。24年予算で、遠征60万を30万で計算。

●創部100周年記念事業に向け、予算面では、本年度より少しずつでもと内部留保に努めております。そのためにも、是非皆様の会費納入をよろしくお願いいたします。

また、100周年事業に対しては、「事業委員会」を作り早めに検討・準備を進めた方がよいと思われます。各代(特に60才以下)に委員への立候補を強く希望します。改めて委員への参加お願いをさせていただき事もあります。その折は、是非よろしくご願ひ申し上げます。

### 現役寄付・会計報告 平成22年11月1日～平成23年10月31日

収入		支出	
前年度から繰越	101,616	遠征補助	97,000
寄付	400,000	練習用品等	30,845
その他	8	筑波定期戦	0
計	501,624	会場・試合等	127,935
		参加費等	45,420
繰越金	200,424	計	301,200

## 【24年度会費納入の件】

23年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願ひいたします。社会人の方は、できましたら2口以上の寄付をお願いいたします。

- ・社会人 1口 5,000円
- ・学生 1口 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も受け付けていますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金 口座番号 019166  
湘南高校サッカー一部OB会  
武藤俊一 TEL. 0466-34-9329

### お問い合わせ・ご質問は

#### 【ホームページアドレス】

湘南サッカー一部OB会  
<http://www.shonan-soccer.com>

#### 【メールアドレス】

関 佳史(事務局)  
[seki6644@yahoo.co.jp](mailto:seki6644@yahoo.co.jp)

武藤俊一(事務局)  
[muto-s@jcom.home.ne.jp](mailto:muto-s@jcom.home.ne.jp)

横山雅行(事務局)  
[m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp](mailto:m-yokoyama@heiwa-sangyo.co.jp)